



No.53



胸裏部の墨書銘



木造子育て地藏菩薩

笠間・花香町の

木造子育て地藏菩薩坐像

笠間市街の昭和町通りすぐ東側を南北に貫く通りが、江戸時代に笠間藩主が参勤交代に利用した道である。その道筋に沿った花香町地内の第十八区集会所東奥の地藏堂に、この地藏菩薩坐像は安置されている。かつては隣接する桜台の泉福寺境内の地藏堂に祀られていた。明治初めの廃仏毀釈の潮流の中で同寺が廃寺となり、花香町の人々が譲り受け、町内に地藏堂を建て守ってきた。平成十一年（一九九九年）、神奈川県秦野市在住の仏師小島弘氏により解体修復された。

れ、翌年、笠間市の文化財の指定を受けた。像容は、像高二〇cm、左の掌に宝珠を載せ、右手に錫杖を持ち、岩座の上に蓮台と載る姿である。小島弘師が、私たちの面前で割短造りの同像を解体して像内を見せて下さった。胸裏と背裏両部分に墨痕鮮やかな銘文が現れ、その内容に驚かされた。原文は漢文体で、意訳すると次のようになる。胸裏部分には、文明十一年（一四七九年）十月十九日、笠間馬場郷の瑞竜庵にて京都の院派仏師・院永作とあり、京都の住

所も記されている。背裏部分に、笠間・馬場郷の住人市毛内匠助藤原朝臣家正の一周忌に造立したと、慈母妙浄の署名がある。

当時の日本は、応仁元年（一四六七）から十一年余にわたり京都市街を戦場に戦鬪が繰り広げられた（応仁の乱）。戦乱は全国に波及、その後の約百年は戦国時代となる。貴族や僧侶の中には都を離れて地方へ避難する者も現れ、中央の文化が地方へ伝播する契機ともなった。水墨画の巨匠雪舟等楊が、現在の山口市へ移り住み京風文化が育まれ、後に同地は「小京都」と呼ばれるようになる。

平安・鎌倉時代以降、仏彫刻の分野で日本を代表する院派の仏師が、戦乱を避けて来笠し、当地で仏像制作をしていることは注目に値する。さらに、文明七年（一四七五）八月の笠間城の鎮守・三所神社の棟札（写）には、城主笠間綱久による同社の屋根の葺き替え記録がある。その折の普請奉行が市毛内匠家正とあり、地藏像の胎内銘文中の市毛家正の存在を裏付けている。

（市史研究員 矢口 圭二）

【問い合わせ】生涯学習課（内線 382）

この枠に広告を掲載してみませんか？

市民に的を絞った効果的な
周知が期待できます 詳細はこちら▶



掲載料金 27,000部発行 広報かさま
小サイズ(45mm×85mm) 10,470円/月
大サイズ(45mm×170mm) 20,950円/月
※消費税10%の場合の料金です。

【問合せ】笠間市役所 秘書課 TEL 0296-77-1101

外壁・屋根…うちもそろそろかな…？

色々なところから営業が…
どこに頼めばいいの…？

そんなあなたも
お気軽にご相談下さい！
外装点検・お見積り無料



一級塗装技能士による住まいの塗り替え

(有)中嶋塗装工業

茨城県知事許可 第31532号 本社 石岡市半ノ木14159-5

中嶋塗装 検索 TEL 0299-57-1641